

2022年(令和4年)6月5日(日) 中日新聞 掲載

SSピンポン みんな一緒に

子どもたち 鳥羽シーサイドホテルで体験

県外普及へ

今年から常設

SSピンポン みんな一緒に

音の鳴る球を使い、視覚障害者らがともに楽しめる卓球「SSピンポン」の卓球台が、今月から鳥羽市の鳥羽シーサイドホテルに常設された。四日には、子どもや障害者を招いた体験会が開かれた。

(高橋信)



ネットの下をくぐるように音の鳴るボールを打つ参加者＝鳥羽市安楽島町の鳥羽シーサイドホテルで

子どもたち 鳥羽シーサイドホテルで体験

県外普及へ
今年から常設

SSピンポンは、視覚障害者用の卓球「サウンドテニス」をより簡略化した競技で県内発祥。金属の粒が入った球を、音を吸収するラバーがない木のラケットではじき、ネット下の隙間から相手のテーブルに転がして打ち合う。

同ホテルは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、利用しなくなった宴会場を卓球場にしている。今月から、常設の卓球台四台のうち一台を、テーブルの周囲に囲いを設け落球を防ぐSSピンポン用に改修した。

体験会には、日本SSピンポン協会や伊勢志摩バリアフリーツアースターの関係者、同市の中村欣一郎市長ら約十五人が参加。経験者も初体験の参加者も、交代で台の前に立ち、楽しそうに汗を流していた。松阪市から訪れた同市掃水小

六年の飛弾蒼介君(こ)は「初めてで難しかったけど、ラリーが続いたり得点が入ったりすると楽しかった。また機会があればしたい」と話した。

台の導入を担当したホテルの前田浩取締役(まご)は「家族連れのお客さまも多いので、小さなお子さまや高齢者にも楽しんでもらえるやさしい卓球を導入できてよかった。県外から来た人に発信してもらい、少しでも普及のお手伝いできれば」と語った。